

[年度]平成22年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名] イノシシの竹林利用状況とエサ源対策

[要約]

カンキツ生産地域において竹林はイノシシのエサ場として4～6月に多く利用されており、根絶することでイノシシの増殖につながるエサ源を効率的に減らすことができる。

[キーワード] 鳥獣害、イノシシ、竹林、タケ、タケノコ

[担当]果樹試験場 環境部

[連絡先]0737-52-2340

[部会名]果樹

[分類]指導

[背景・ねらい]

カンキツ生産地域の獣害発生環境を改善するため、一般的にいわれているように竹林がイノシシの重要なエサ源となっているかを明らかにする。また、竹林の根絶がイノシシ被害対策に繋がるかを検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 竹林内では4～6月にイノシシの出没が多くみられる（図1）。
2. 出没したイノシシは地面を掘り起こし、タケノコを食べる（図2）。掘り起こした穴の周辺に食べ残したタケノコやその皮が散乱する。また新鮮な糞もみられる。
3. 竹林はカンキツ生産地域においてイノシシのエサ場として利用されている。
4. 除草剤による枯殺処理で竹林を根絶した場合、イノシシによる掘り起こし箇所数は少なくなる（図3）。
5. 竹林を根絶することで、カンキツ果実の少ない4～6月のイノシシのエサ源を減らし、幼獣の誕生直後の死亡率をあげ、増殖を妨げることができる。

[成果の活用面・留意点]

1. イノシシは栄養状態が良いと増殖するため、根本的な被害対策としてエサ源を減らしていくことが重要である。
2. 枯殺処理は農薬登録を受けた除草剤を適正に使用する。
3. 枯殺した竹稈は倒れる恐れがあるため、伐採等適切に処理する。
4. 自然公園内、風致地区内、砂防指定区域、河川区域内では木竹の伐採や枯殺処理は許可が必要となる。また、災害の発生しやすい土砂災害危険箇所、山地災害危険地区における木竹の伐採や枯殺処理は検討を要する。

（砂防指定区域、土砂災害危険箇所、山地災害危険地区は「わかやま土砂災害マップ」参照）

[具体的データ]

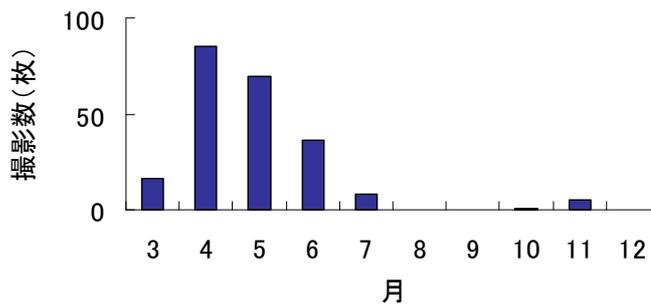


図1 イノシシの月別撮影枚数

※ 赤外線センサーカメラ (Game Spy I45、Moultrie Feeder 社製) で撮影
撮影期間：2010年3月～12月



図2 竹林内で土を掘り起こしタケノコを食べるイノシシ

※ 2010年5月2日19時57分に赤外線センサーカメラ
(Game Spy I45、Moultrie Feeder 社製) で撮影

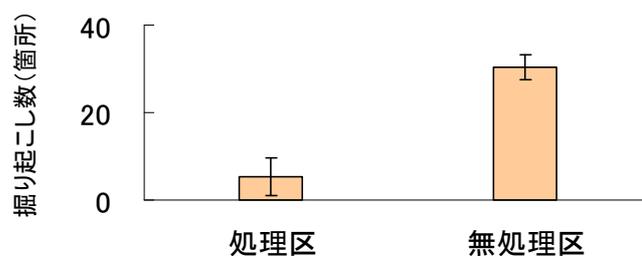


図3 枯殺処理区のイノシシ掘り起こし箇所数

- ※ 処理区、無処理区ともに6区 (5×5m) (図中の縦棒は標準偏差を示す)
- ※ 処理区と無処理区に差が認められる (t-test, $p<0.01$)
- ※ 枯殺処理：2009年7月2日 (刈草-トリカム塩液剤を全稈注入)
- ※ 調査：2010年5月27～28日 (処理区は根絶されタケノコは確認できなかった)

[その他]

研究課題名：農作物鳥獣害防止技術実証

予算区分：県単

研究期間：平成21～23年度

研究担当者：法眼利幸、山本浩之、井沼 崇、貴志 学、森口幸宣

発表論文等：なし

HP掲載の可否：可